

# TRAIN HOBBY

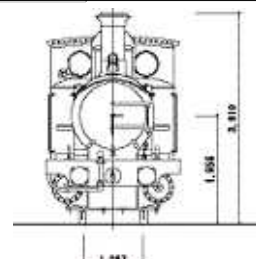
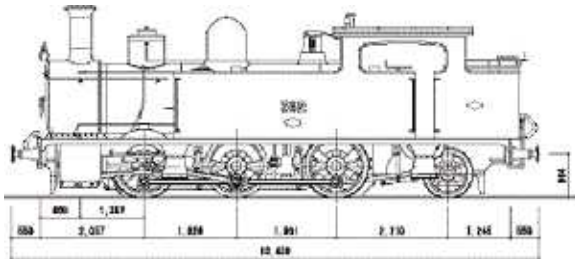
## 2120形蒸気機関車



機関形式  
定格出力 9.8kg/cm<sup>2</sup> (1924年版では11.3kg/cm<sup>2</sup>)  
機関車出力  
最大引張り  
最大速度  
整備重量 49.87t  
製造所 Dubs(英)、North British(英)、S  
harp Stewart(英)、神戸工場

製造年  
台車形式

全長	10203mm
全高	3658mm
軸配置	0-6-2(C1)
動輪直径	1219mm 1914年度版では1245mm(2106~2111) 1924年度版では1250mm 1914年度以降1270mm(2112~2116))
弁装置	スティーブンソン式基本形(2115, 2116はアメリカ形)
シリンダー(直径×行程)	406mm×610mm
ボイラー圧力	9.8kg/cm <sup>2</sup> (1924年度版では11.3kg/cm <sup>2</sup> )
火格子面積	1.33m <sup>2</sup> (1924年度版では1.31m <sup>2</sup> )
全伝熱面積	93.6m <sup>2</sup> (1924年度版では92.9m <sup>2</sup> )
煙管蒸発伝熱面積	84.2m <sup>2</sup>
火室蒸発伝熱面積	9.4m <sup>2</sup> (1924年度版では8.7m <sup>2</sup> )
ボイラー水量	3.0m <sup>3</sup>
小煙管(直径×長さ×枚)	45mm×3140mm×192本
機関車運転整備重量	45.47t (1924年度版では46.36t)
機関車空車重量	35.85t
機関車動輪上重量(運転整備時)	37.85t (1924年度版では38.24t)
機関車動輪軸重(最大・第3動輪上)	12.70t (1924年度版では12.93t(第2動輪上))
水タンク容量	7.73m <sup>3</sup> (1924年度版では7.8m <sup>3</sup> )
燃料積載量	1.65t (1924年度版では1.9t)



イギリスのダブス社により、1890年(明治23年)官設鉄道(当時は内務省鉄道庁)向けに6両(製番2682~2687)が製造され、官設鉄道では、AC形として154~164(偶数)に付番した。翌1891年(明治24年)には日本鉄道向けに6両(製番2771~2776)が製造され、166~176(偶数)に付番された。

1894年(明治27年)6月1日、日本鉄道が官設鉄道(当時は逓信省鉄道局)から分離独立した[2]のに伴い、官設鉄道の6両は105, 107~111に改番され、日本鉄道ではD3/4形(60~65)に改めた。

後に2100形となったものとしては、関西鉄道が1896年(明治29年)にダブス社から輸入した3両(製番3315, 3316, 3323)と1903年(明治36年)にダブス社の後身であるノース・ブリティッシュ・ロコモティブ社グラスゴー工場から輸入した2両(製番16019, 16920)がある。これらは形式14(14~16, 78, 79)と付番され、「雷(いかづち)」と愛称された。

日本鉄道と関西鉄道のもの、鉄道国有法により官設鉄道に移管され、1909年(明治42年)に制定された鉄道院の車両形式称号規程では、官設鉄道のものとともに2100形とされた。番号は、官設鉄道分6両が2100~2105、日本鉄道分6両が2106~2111、関西鉄道分5両が2112~2116となっている。

